

2024年2月



CWS JAPAN NEWSLETTER NO.89

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

難民・移民の生活に 寄り添う日本語学習 支援 | 日本語教師の 想い

多文化・多世代共生のための大人の居場所
「コミュニティカフェ@大久保」では、2023
年にオープンして間もなく、難民のための日
本語学習支援から取り組みを開始しました。

日本語学習支援のきっかけは、外国人 相談会での出会いから

きっかけはちょうど今から1年前、日本福音
ルーテル東京教会で外国人相談会を実施し
た時。日本語学習に意欲的だけど、ほぼ独
学・自己流日本語の「何とか生活はできる」
学習者と「日本語全然ダメ・英語少し分か
ります」の難民申請者が相談会に現れたこと
でした。

最近では優れた多言語対応アプリが日進月歩
で開発されています。しかしながら、日本人
との交流から日本社会に溶け込み、社会から
孤立させない、また、予期しない有事に自分
の身を守るためにも日本語能力は必要不可欠
なコミュニケーションツールです。

そこで、さまざまな事情を抱えた彼らの個別
の生活状況や理解レベルに合わせた指導の必
要性を感じ、仲間の日本語教師たちに協力を
呼びかけ、コミュニティカフェで対面のプ
ライベートレッスンを提供することから始め
ました。

「それなら、
こちらから出向きましょう！」

さらにまた、大久保という多国籍地域で商
売する外国人オーナー店舗では日本語を理
解する従業員が少ないこと、その一方で日
本語学校に行くお金がない、勉強する時
間がない、営業中は店を離れられない、
という事情を知りました。「それなら、
こちらから出向きましょう」と、まず
はわたしたちの協力店舗の店先出張レ
ッスンも始めることになりました。

そこで今回は、その学習指導にあたって
いる2人の日本語教師支援者に寄稿い
ただきました。

コミュニティカフェ@大久保で 出会った学習者たち

わたしがこのプロジェクトに関わるよ
うになったのは、旧友の牧さんに誘
われたことがきっかけです。



ネパールレストランでの出張レッスン©CWS Japan

約20年日本語指導に携わってきましたが、難民申請者の方々に日本語を教えるのは初めてで、どのように接していいかというところから始まり、教え方や学習者のニーズなど今までの経験だけでは補えない場面に遭遇し、戸惑うこともありました。

しかし、彼らと接し、話を重ねて行く中で、日本語を勉強したいという意欲と、今まできちんと勉強できる環境も持てなかった事実を知り、微力ながら、彼らが日本語を習得することで少しでも日本での暮らしが豊かになればと願い、指導しています。

支援の一環として行なっているコミュニティ・カフェ@大久保のイベントで、日本語支援をしているイラン人の方とイラン料理教室を開催しました。彼はたくさんの日本人と日本語でコミュニケーションを取ることができ、イラン料理の作り方も紹介することができました。

わたしたち日本人は、イラン料理を堪能でき、さらにイランの家庭では男の人でも自分で掃除やベッドメイキングもするという話を聞き、わたしたちが思っていたイランの家庭とは違う事を知り、イランという国についての新たな発見をすることができました。



イラン料理教室の時の様子 ©CWS Japan

このように、日本語学習により、学習者が日本人と対話ができ、お互い知らなかったことを知ることができます。お互いを知ることによって敵意や差別が減り、より良い関係を築けると思います。これからも、学習者が地域に溶け込み、日本での生活がより良くなるよう今後も支援していきたいと思っています。

(文：日本語教師 鶴田恵子)

日本語という コミュニケーションツール

言葉というのは最大のコミュニケーションツールです。もちろん言葉が通じなくてもスポーツや音楽、または共に時間を過ごすことで友情が芽生えたり、関係が深まったりすることはありますが、やはりお互いをより良く知り、理解しようとするには共通の言葉が不可欠だろうと思います。

コミュニティ・カフェ@大久保の日本語学習支援で学んでいる学習者の多くは、さまざまな事情で来日し、日本語を学びたいと思いつつも機会がなかった人や、日本語が分からないために孤立し、困窮しやすい状況にある人たちです。

しかし、ここでの「日本語学習支援」の目的は彼らの学びを支援するだけではありません。もちろん、日本語の習得によって彼らが日本社会でより安心して暮らせるようになることが第一ですが、同時に、すぐ近くで生活しながらも、彼らを遠巻きに眺めているだけだったり、特に関心を持たなかった日本人が新たな隣人に出会っていく機会を作り出していくことも重要だと考えています。

私自身も、今まで教えてきた日本語学校にいる留学生とは全く異なる背景を持つ学習者たちと、ここで出会い、彼らが直面している課題を知り、またそれぞれの出身国の文化や社会的状況に関心を持つようになりました。



コミュニティカフェの日本語レッスン©CWS Japan

また、コミュニティカフェで行われる料理教室[■]などのイベントと一緒に参加して、日本人参加者や他の学習者さんたちと交流する機会があり、それが楽しい時間となっています。チュニジア出身の学習者さんは、コミュニティカフェも出店した地域の商店街のお祭りで「ブリック」という「チュニジアの春巻き」を作り、珍しい料理に多くの方たちが足を止めてくださいました。「おいしい！」「さっき食べておいしかったので、もう一つください」「中に何が入っているんですか」などの声に、とても嬉しそうにしていました。

コミュニティ・カフェ@大久保で生まれる出会いやつながりは、まだ小さなものですが、これから日本語学習支援を始め、コミュニティカフェの活動に関わる人たちの輪が広がっていくように願っています。

(文：日本語教師 千葉あかね)

さいごに

在日外国人支援緊急募金のお願い

CWS Japanでは、さまざまな事情を抱え、生活困窮する在日外国人の相談・伴走支援・日本語学習支援を行っています。彼・彼女らの多くは公的支援を受けられない事情を抱える人々が多く、彼らの命をつなげるには民間の力に頼るしかありません。

12月から開始した緊急募金は、現在40名あまりの個人・団体から50万円超のご支援をいただきました。まだまだ、目標額350万円には遠い道のりです。ぜひともこの支援の輪に加わっていただければと思います。

そしてぜひ一度、私たちのコミュニティカフェにも足をお運びください。

(文：ディレクター 牧由希子)

緊急募金

生活困窮する在日外国人のため お助け下さい！

CWS Japanでは、2020年より在留資格や健康問題によって就労できず生活困窮する難民・移民の人々への支援に取り組みはじめ、外国人相談会の開催、病院・入管同行やさまざまな経済的支援を行ってきました。

なかでも、今年6月に可決された入管法改悪によって、帰国できない事情を抱える非正規滞在者は先の見えない自分たちの将来を悲観し、不安な日々を送っています。

このような難民・移民への人道支援、また彼らと日本人との出会いや交流拠点として、CWS Japanは2023年4月にコミュニティ・カフェ@大久保をオープンしました。

緊急人道支援に必要な資金

献金目標金額：**350万円**
献金受付期間：2023年12月～2024年3月

▼本支援への献金はこちらへ▼

ゆうちょ銀行 ゆうちょ振替：00160-7-496854 口座名義：特定非営利活動法人 CWS Japan トクヒ シーダブリエス ジャパン	銀行口座 三菱UFJ銀行 神田支店 (店番331) 普通預金口座 0333767 口座名義：特定非営利活動法人CWS Japan トクヒ シーダブリエス ジャパン
--	--

CWS Japanとは

米国に本部を置く Church World Service (CWS) の歴史は、敗戦直後の日本へ贈られた食糧物資の配布活動から始まりました。2011年、東日本大震災に対する緊急支援を行うため、再びCWS Japanが設立されました。

publiccwsjapan.jp

ご支援に関する詳細は下記URLよりご確認いただけます
https://www.cwsjapan.org/2023/12/01/fr_christmas_cwsjapan/

アフガニスタン研修員を招いて | 防災力向上に向けて、災害パターンが類似する日本から学ぶ

2024年1月4日から1月11日にかけて、東京と静岡でアフガニスタンからの研修員を招いて本邦研修を実施しました。今回のブログでは、その研修の概要や背景についてお話ししたいと思います。

「本邦研修」とは？

「本邦研修」とは、日本での既存文化を踏まえ独自に発展した経験を伝えるために、開発途上国の関係者に日本に来てもらい、実際に日本の社会や組織に身を置いて学んでもらう技術協力のことです。古くから日本の政府開発援助の一環として発足し、1954年から世界各国の研修員を受け入れています。

CWS Japanもこの精神に則り、2016年から外務省NGO連携無償資金協力の助成を受け、現地パートナー団体、国土防災技術株式会社、CWS Japanとの三者連携でアフガニスタンにおいて防災事業を展開しています。

私はプロジェクトオフィサーとして携わっていますが、事業内容についてはまだまだ勉強中。詳細は小美野事務局長の以前の記事をご参照いただければと思います。



● ●
【事業進捗報告】
アフガニスタンで
目指す、防災の
ローカライゼーション

 **CWS JAPAN**
Church World Service

アフガニスタンで目指す、防災のローカライゼーション | CWSJapan

こんにちは、事務局長の小美野です。今日ご紹介する事業は、外務省NGO連携無償資金協力の助成を受け、現地パートナー団体、国土防災技術株式会社との三者連携により、アフガニスタンのナンガハール県とラングマン県にて実施している「アフガニス...

n note (ノート) / Jul 27, 2023



静岡での現地視察風景 ©CWS Japan

今回の本邦研修はCWS Japanとしては実に4年半ぶり、2019年6月以来の実施となりました。長いコロナ禍とアフガニスタンの政権交代の影響を受け、本邦研修は実施できていませんでしたが、防災力向上の取り組みはコロナ禍でも日本と現地をオンラインで結んで続けていました。

コロナ禍と政変。

これまでとは異なるハードルを越えて

久しぶりの日本での研修実施だったため、日本側の準備は2023年の8月から着手。同時に現地での参加者の選定も厳格なルールに基づいて現地パートナー団体が進め、結果として9月に、大学の講師や国家災害省の技術職員、コミュニティの代表を含む10名の研修員を決定しました。

ここから日本ビザの取得に進んだのですが…アフガニスタン国内では申請がかなわなかったため、パキスタンでの申請を計画。しかしながら、諸般の理由により、最終的にはイランで申請することになりました。

外務省や現地大使館から多大な協力を賜り、実際にビザを取得できたのは11月下旬。ここからスピードを上げて研修員の方々を迎える準備を進めることになりました。

類似する災害パターンから学ぶ

意外なことかもしれませんが、気候や土地柄も違うアフガニスタンと日本ですが、災害パターンは似ている点が多いそうです。今回の研修では、今までの災害対応から培われてきた日本の砂防技術を、アフガニスタンの資材を応用し、地域の防災施設建設に寄与できる方法を探りました。

研修員は、アフガニスタン国内で防災に携わるプロフェッショナルであり、来日前にはすでに現地での研修を受けてきた方ばかり。講義中や現地視察時には講師への質問や白熱した議論が絶えず、スケジュールが大幅に変更されることもしばしばでした。

感謝と新たな決意

この研修の成功には、外務省からのNGO連携無償資金協力、国土交通省静岡河川事務所と国土防災技術株式会社の専門家の皆さまからの準備段階および研修を通じて多大な協力があったことを改めて感謝いたします。

私自身は普段、事業会計を主な仕事としており、アフガニスタンの方々と実際に顔を合わせるのは今回が初めてでした。今回の経験を通じて、いつもパソコンと顔を突き合わせてしている私の仕事が、遠く離れたアフガニスタンの防災力向上にほんの少しでもつながっているという実感を得ることができました。今後も精力的に、自身の役割を全うし、事業に真摯に取り組んでまいります！

(文：プロジェクト・オフィサー 浜田由美子)

市民との交流

「アフガンナイト」の舞台裏

今回の本邦研修では、研修中（都内）の生活面のサポートと帰国前夜に開催した「アフガンナイト」主催の統括を担当しました。

CWSでは、過去に2回本邦研修を受入しましたが、一度も市民との交流を企画したことがありませんでした。そこで、2023年4月から多文化・多世代共生の場としてオープンしたコミュニティカフェ@大久保を会場として、この企画を提案しました。

ハラール食をどう準備する？

このイベントを企画する上で最も準備に時間を割いたのは食事の提供でした。想定された参加者はアフガン人も含め30名。主賓であるアフガン人はイスラム教徒ですから、もちろんハラール食でなければなりません。

そこで、最初に思いついたのは、新大久保でバンングラデシュ人が経営するわたしたちの協力店にケータリングを頼むことでした。その店は、彼らが宿泊する研修施設の近くにもインド料理レストランを経営していたので、そちらでもランチを提供してもらいました。

ところが、イベント直前になって、CWSが支援してきたクライアントの一人であるパキスタン人シェフ👨🍳が「ぜひ、アフガン人が好むアフガンピラウを作りたい」と言いはじめたのです。

彼は12月に再入院し、退院したばかりの身体でしたが、何か目標を探しており、精神的な支えを必要としていました。アフガニスタンから大量の難民が流入するパキスタン出身の料理人である彼がアフガン人の食習慣を知らないわけがありません。このイベントを企画した統括責任者であるわたしにとって、30人の食事に穴を開けるリスクを考えると大変難しい決断でしたが、彼の申し出を受けることを決めました。

地域の皆さんとも交流

実はこのイベントは参加費無料でディナーを提供することから、参加者の一般公募は行わず、会場となるルーテル東京教会の関係者、コミュニティカフェの学生や社会人ボランティアを中心に参加を呼びかけました。

ところが、蓋を開けてみると、クローズドな会のはずが、実際は想定していなかった地域の方々も集まって下さり、お皿の枚数から、おそらく来場者は40人ほどだったのではないかと推測します。

通訳のない場でしたが、学生ボランティアが用意したゲームやスライドショーを見ながら、バンングラデシュカレーやアフガンピラウを共に味わい、アフガンダンスを踊りました。

おわりに |

アフガニスタンの存在を今一度

今回の彼らの来日は、コロナ禍のため、長い間オンラインのみでコミュニケーションをとっていたカウンターパートとの初めての対面だったため、大変感慨深いものがありました。

世界各地で次々と新たに起こる戦争や災害に埋もれてしまいがちなアフガニスタンの存在を今一度、彼らとの出会いから日本人市民に思い起こしてもらいたかったですし、文化的背景が異なる彼らとの交流から日本人参加者の間にさまざまな発見があったらうれしく思います。

(文：ディレクター 牧由希子)

アフガニスタンの防災力の向上を目指して | アフガニスタンの人々が主体の災害対策とは？

本日は支援事業開始から3年目となったアフガニスタンのバーミヤン県における防災力向上事業の最近の状況を報告いたします。

長年にわたる紛争やテロに伴う政情不安などのイメージが強いアフガニスタンですが、地震や洪水、干ばつ、冷害など多くの災害が発生し、自然災害のリスクも非常に高い国なのです。特に、近年顕著になってきた気候変動による降雨パターンの変化に伴い、水害や干ばつなど水に関する災害リスクも高まっています。

こうした災害リスクが高い急斜面や深い谷などが多い山岳部に位置するバーミヤン県で、CWS Japanとその現地パートナーは、地域の人びとが主体となった災害対応力向上や災害リスク軽減に取り組んできました。

事業背景は、前回の報告をご参照ください。



災害対策を地域主体で

2022年11月から2023年9月までは、ジャパン・プラットフォームの助成金を受けたバーミヤン県における支援事業の第2フェーズでした。この間に地域の364人（男性264人、女性100人）が直接的に災害リスク軽減活動に参加しました。

加えて、災害時の脆弱性が特に高い国内避難民*や帰還民*など、510世帯（3,560人）を対象に食料の確保を目的とした支援も実施しました。

*国内避難民：紛争等の理由により国内の他地域に逃れた人びと。

*帰還民：難民として国外に逃れていたが、帰国した人。難民として逃れた期間が長く、帰国後も生活が安定していない人も多い。



食料などを購入するための現金を受け取り喜ぶ女性 ©CWSA

災害リスクを正しく把握し、対策をする

地域が主体となった災害対策では、まず初めに自分たちが住んでいる地域にどのような災害リスクがあるかを話しあい、このリスクを軽減させるための計画を立てました。

日本では各自治体が災害ハザードマップを作成しており、多くの人がある存在を知っています。災害リスクを正しく理解するために災害ハザードマップの読み方も学びました。

具体的な災害リスクが特定されると、どこにどのような仕組みを作ると災害リスクが軽減できるか明確になります。そこで地域の人びとの技術と資源で持続可能な対策を取りました。



災害ハザードマップの読み方を学ぶ地域の人びと ©CWSA

まず、鉄線で籠を作り、その中に石を詰めました。こうしてできた蛇籠を、洪水や鉄砲水のリスクが高い河川にそって積み防護壁を設置しました。なお、蛇籠作りは社会的活動への制限が多いアフガニスタンの女性でも家庭内で取り組むことができるので、比較的容易に参加することができました。



蛇籠を積み上げ、石を入れていく様子 ©CWSA

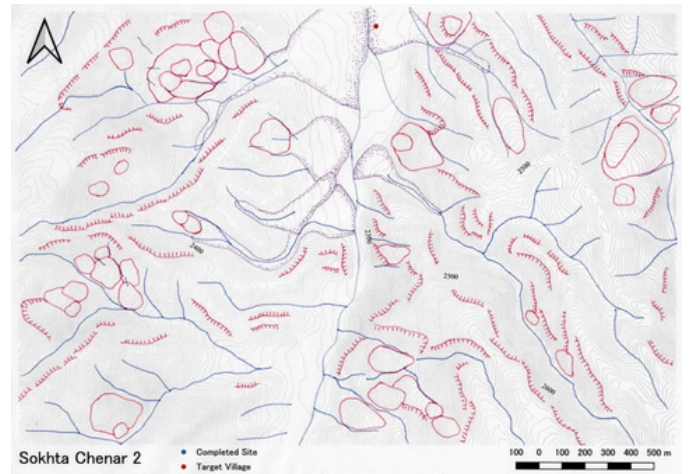


河川に沿って防護壁を建設 ©CWSA

継続が重要な地域の防災対応力。 引き続き地域の人々に寄り添った 支援に取り組みます

バーミヤン県には、同様に災害リスクに面した脆弱な地域がまだ多くあります。鉄線や石などは現地でも容易に入手可能な資材です。これらを用いてどこにどのような対策を講じるかということが、地域に知識と経験として根付いていけば、地域の防災対応力も持続的に維持されることが期待されます。

現在もバーミヤン県内の14村で同様の支援活動を実施しています。まず、日本の防災の専門家に衛星写真から村周囲の地形を判読し、地滑りや土石流、落石などのリスクが特に高いと思われる場所を特定します。



衛星写真から読み取った地形的特徴から災害リスクを地形図に落とし込んだもの。中央上部の赤点が村がある場所。村に直接的に被害をもたらす可能性が高いものを選んで、現場確認を実施する。

しかしここから先は、現地の人々が特定された場所に足を運び、実際の土砂の流出の有無や、土壌の色合い、落ちた石の広がり具合、崖の様子などを実際に目視で確認する必要があります。

具体的リスクがどこにあるのかを特定した上で、各村の人びとが中心となって、防災計画作成や蛇籠を用いた防護壁の建設などの対策を今後も実施していく予定です。

本支援事業はジャパン・プラットフォームによる助成金と皆様からの温かいご支援によって可能になっています。CWS Japanは、これからも地域の人びとが中心となった支援を継続してまいります。引き続きの応援をよろしくお願いいたします。

アニメ×難民支援 「HUMANITARIAN ANIME事業」とは？

CWS Japanでは2023年末からアニメと難民支援を掛け合わせたHumanitarian Anime事業のパイロットを開始しました。今回はその取り組みについてご紹介します。

難民支援×アニメ？

世界的に議論されているさまざまな支援方法の新たな手段のひとつとして

世界では、食料不安の深刻化、気候危機、世界各地での戦争や紛争などにより、1億人以上の人々が家を追われ、避難を余儀なくされています。これらの人々に対する人道支援、人的ビザや入国プログラム、コミュニティ・スポンサーシップ、家族再統合、労働移動、第三国での教育機会など、代替／補完的な支援方法について世界的な議論が行われています。



現地で本取り組み紹介文にも載せているイラストです

CWSは1946年の発足当初から家を追われた人々への人道支援を継続しています。日本のクールジャパン産業としても注目されるアニメ業界に、難民・避難民の方々が関わっていけるよう、この度、日本のアニメ業界の皆さまと協働し、「アニメと人道支援 (Humanitarian Anime)」事業を始動しました。

トレーニングを通じて スキルを習得し、成長する アニメーション分野で未来を築く

骨子としては

■アニメ制作に必要な主要スキルを（アニメに関心がある）若い難民・避難民にトレーニングする

■十分なスキルを身につけた難民は、居住地に関係なくアニメ制作に関わっていける道筋をつくる

というものです。

当事業を通じて習得したスキルや関係性は、難民・避難民の方が第三国定住などどこに行っても、成長するアニメーション分野で収入を得るために活用できます。

日本のアニメ産業の市場規模は約3兆円と言われており、さらに伸び続けています。その半分以上が海外市場であり、海外にも多くのファンを持つグローバル産業となっている今、制作に携わる関係者もさらなるグローバル化が進むことが想定されます。

作品づくりを通し、難民・避難民の方に技術指導・雇用の創出・自立支援を行うと同時に、日本のアニメ制作現場の慢性的な人手不足解消へ寄与できればと考えています。

アニメーション制作の流れと トレーニング

アニメーション制作は以下のようなプロセスで行われ、一定の基本的なスキルやトレーニングがあれば収入を得ることができる作業もあります。本事業ではここからトレーニングしています。

アニメーション制作の流れ



当事業でまずトレーニングしていく「クリナップ」とは、原画をトレースして仕上げる作業で、対面研修やオンラインフォローアップを通じて技術を習得していきます。

また、タイムシート（原画や動画、カメラワークなど、アニメ制作の工程で重要な情報を、伝えていくために使われる表）の読み方も学び、図面や動きの順序を把握できるようになることも重要です。

アニメと人道支援 (Humanitarian Anime) 事業から 想定されるインパクト

想定されるインパクトとしては、日本のアニメスタジオによる遠隔請負を通じて、難民・避難民が生計を立てるためのスキルを身につけることで、さまざまな場所で就労の問題に直面している難民・避難民にとって、未来を築く突破口となる可能性があると考えています。そして、日本のアニメ制作に携わる人も増加することで、アニメ産業の労働者不足の解消にも貢献できればと考えています。

実際に今放映されているアニメ作品にも少しずつ貢献しています。詳細は引き続きnoteやウェブサイトなどでお伝えしていきます。

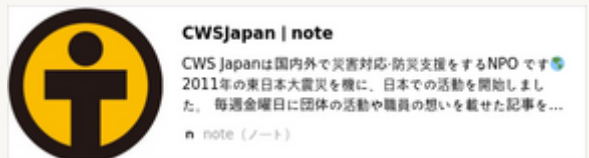
(文：事務局長 小美野剛)

さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み



特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)